

【修学旅行の事前・事後学習】での活用事例（中学校第3学年）

【活用した資料】

- 中学校版「心みつめて」 p.37 第一章「倭は国のまほろば…」 『古事記』
- 中学校版「心みつめて」 p.165 第三章「我が国を愛し、その発展に努める」

【学習指導要領に示されている道德の内容】

- 4-(9)「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。」

○ 事前学習で、「日本の美しさ」について考えるきっかけとして…

修学旅行の事前学習で、「日本の美しさ」について考えるきっかけとして、「心みつめて」第一章 p.37 のことばを活用しました。異郷の地で病の身となった倭建命（やまとたけるのみこと）が故郷の倭（現在の奈良県）を思って詠んだというこの歌から、故郷をいとしく思う倭建命の心情に共感させるとともに、「まほろば」（＝優れた場所）、「たたなづく青垣」（＝重なり合いつながり合う青い山々）、「山隠れる」（＝山々の懐に抱かれた）、「うるはし」（＝なんと美しいことか）といった言葉で表現される風景を想起させ、古くから受け継がれてきた日本の美しさについて考えさせました。日本のよさを再発見し、誇りをもってそれを未来へとつなげていくという気持ちをもって、事前学習に取り組ませることができました。

○ 事後学習では、体験を通して考えたことをまとめるために…

修学旅行で京都・奈良に行き、数多くの優れた伝統文化に触れた後に、事後学習として、「心みつめて」第三章 p.164～p.165 の「わが国を愛し、その発展に努める」を活用しました。p.164 の「日本のよさをこう考えている。」の欄には、修学旅行中に出会ったり再発見したりした日本のよさについて、自分の考えを整理して記入させました。また、p.165 では、優れた文化を受け継ぎ発展させていくのは自分たちなのだということを意識させながら、欄に記入をさせました。自分たちの国の文化をどのように受け継ぎ、どのように発展させていくのかについて考えさせることを通して、日本の文化を大切にしようとする気持ちや、自分たちの国を愛する気持ちをもたせることができました。